

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

博士論文審査報告書

論文題目

原題名 Original Title	An Empirical Study of Bonding and Bridging Social Capital in Japan
英訳 In Japanese	日本におけるボンディングとブリッジング・ソーシャルキャピタルの実証研究

申請者

氏名 Name	姓 Last Name Qin	Middle Name	名 First Name Ziyi
学籍番号 Student ID	4012S313-5		

2020年 1月

1. 本論文の主旨

少子高齢化による人口減少や地域経済の衰退などに直面している日本社会では、持続可能な社会を実現するための施策に関し、ソーシャル・キャピタル(Social Capital)の活用による持続可能な地域社会の構築が議論されている。従来、日本はソーシャル・キャピタルが豊かな国といわれてきたが、高齢化や人口減少などにより、ソーシャル・キャピタルの低減が懸念されており、日本のソーシャル・キャピタルに関する様々な研究が行われている。

ソーシャル・キャピタルはその特徴や機能から、2種類に分けて論じられている。ボンディング型(Bonding)とブリッジング型(Bridging)である。ボンディング型とは、地縁や血縁をベースとした地域共同体の内部的な社会関係であり、ブリッジング型は新たに形成された社会関係にもとづく外部連結的な社会関係であるとされてきた。さらに、これら2種類のソーシャル・キャピタルが社会経済に与える影響が異なるとの議論が展開されている。日本の内閣府(2003)によれば、日本国内のボンディング型ソーシャル・キャピタルは減少傾向にあり、一方でブリッジング型ソーシャル・キャピタルは増加傾向にあると報告されている。しかし、日本におけるボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルに関する実証的研究はまだ不十分である。

本論文は、日本におけるソーシャル・キャピタルの状況を解明するため、2種類のソーシャル・キャピタルの区別に焦点をあて、それらの現象形態と社会的メカニズムから、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの区別するものは何かという問いをメイン・リサーチクエスチョンとして設定した。そして、このメイン・リサーチクエスチョンを明らかにするため、個人レベルと地域レベルに分け、これら2種類のソーシャル・キャピタルの規定要因を個人レベルから分析するとともに、農村と都市との分布パターンを地域レベルから分析し、比較分析を行った。

個人レベルについては、本論文の第一のサブ・リサーチクエスチョンとして、日本におけるボンディング型ソーシャル・キャピタルとブリッジング型ソーシャル・キャピタルの規定要因をそれぞれ分析し、比較を行った。分析の結果、この2種類のソーシャル・キャピタルが個人レベルの規定要因において、異なる要素を有する一方、共通する要素も存在することを明らかにした。

地域レベルについて、本論文の第二のサブ・リサーチクエスチョンとして、ボンディング型ソーシャル・キャピタルとブリッジング型ソーシャル・キャピタルが日本の農村部と都市部における分布水準を比較した。分析の結果、このサブ・リサーチクエスチョンへの回答として、日本の農村地域において、ボンディング型とブリッジング型両方とも、都市部より高いことを実証した。2種類のソーシャル・キャピタルが地域レベルにおいて、分布パターンの区別がないことを解明した。

本論文は、日本におけるボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの区別について、個人レベルと地域レベルそれぞれから分析した結果、メイン・リサーチクエスチョンへの回答として、日本におけるボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルが異なる要素を有することが明らかになった。一方、この2種類のソーシャル・キャピタルの共通部分が大きいことも実証した。これらの分析結果から、日本の社会構造や人々の生活スタイルが大きく変化していることを背景とし、ボンディング型とブリッジング型という分類方法自体を、再検討する必要性がある言えよう。

本論文は、日本におけるボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの比較に研究により、日本におけるソーシャル・キャピタルの現状を解明し、ソーシャル・キャピタルの形成に関する理論的発展に貢献した。また、本論文で得られた学術的知見を日本に

における持続可能な地域社会の構築に応用することが期待される。

2. 本論文の構成と概要

本論文は以下の5章から構成されている。

第1章 研究の目的と論文構成

第2章 先行研究の整理とリサーチクエッションの設定

第3章 ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルが個人レベルにおける規定要因の検証

第4章 ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの地域的分布の比較

第5章 結論と今後の課題

第1章「序論」は、本論文における研究の背景と目的について説明している。まず、持続可能な社会の構築におけるソーシャル・キャピタルの必要性を論じ、日本におけるソーシャル・キャピタルの発展および現状について概観した上で、本論文の研究課題を説明した。そして、最後に本論文の構成について述べた。

第2章では、ソーシャル・キャピタル理論の発展、ソーシャル・キャピタルの定義、課題などを整理し、本論文におけるソーシャル・キャピタルをネットワークとして定義している。さらに、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの先行研究のレビューを行い、全体のリサーチクエッションを設定し、また、そのリサーチクエッションに答えるための実証分析のフレームワークを設定した。

第3章は、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの個人レベルにおける規定要因を分析した。具体的には、日本全国を対象にしたアンケート調査データをベースにし、個人属性と地域属性を考慮し、個人レベルのソーシャル・キャピタルの決定要因を分析した。分析の結果、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルは、個人属性と地域属性によって影響されることを明らかにした。さらに、この2種類のソーシャル・キャピタルが違う要因に影響されていることを示した。しかし、共通要因の影響が大きく、お互いに異なる関係ではなく、共通点を共有し、重なる関係であると結論づけた。先行研究の多くは、両者の区別を強調してきたが、本論文では、両者は共通部分があり、実際にオーバーラップしていることを実証した。

第4章は、地域レベルの視点から、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの農村部と都市部における分布パターンを比較した。分析の結果、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの地域的分布パターンが一致していることを示した。ボンディング型とブリッジング型の2種類とも、日本の農村部は都市部より高いことが示された。従来の研究では、ボンディング型ソーシャル・キャピタルは農村部の方が豊かであり、ブリッジング型ソーシャル・キャピタルは都市部が豊かであるとされて、こうした地域分布の差異が、2種類のソーシャル・キャピタルが区別される証拠であるとされてきた。本研究では、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルが既存研究と異なる結果を実証的に示した。

第5章は、本論文の結論と学術的貢献をまとめ、今後の課題を提示した。本論文は、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの区別に焦点を当て、個人レベルと地域レベルという視点から分析、2種類のソーシャル・キャピタルは個人レベルにおいて違う規定要因があることが明らかになった。一方、共通要因の影響も大きいことが証明され、実際に重なる部分もあることが示された。また、地域レベルでは、農村部と都市部における分布パターンが一致していることが示された。先行研究は、ボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルの相違を強調しているが、本論文では両者の共通性、重なる部分があることを指摘した。本論文は、従来のソーシャル・キャピタル研究へチャレンジし、新たなソーシャル・キャピタル研究のあり方を提示した。本研究は、日本におけるソーシャル・キャピタルの現状を分析し、ソーシャル・キャピタル理論を拡張したものであり、ボンディング型とブリッジング型という議論のみならず、ソーシャル・キャピタル研究そのものの発展にも寄与するものである。

3. 口述試験での質疑応答

本論文審査委員会は、申請者から提出された学位請求論文を査読し、2019年11月28日(木)12時15分から14時15分にかけて、早稲田大学19号館309号室にて2時間にわたり公開発表会・口述試験および審査委員会を実施した。

公開発表会および口述試験においては、本論文の学術研究史上の位置づけや学術的貢献、日本におけるボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタル研究の意義、個人レベルの規定要因、地域レベルの分布、それぞれを解明するための実証的な分析方法およびその結果、今後の研究展開の可能性について活発な質疑が行われ、それぞれの質問・コメントに対して、申請者より適切な回答がなされた。

4. 評価と審査結果

本論文は、ソーシャル・キャピタル研究におけるボンディング型とブリッジング型という分類に着目し、個人レベルと地域レベルという2つの視点から、日本社会における2種類のソーシャル・キャピタルの要素や状態を検証したものであり、従来のボンディング型とブリッジング型ソーシャル・キャピタルという理論を実証的に検討した点において独創性がある。

具体的には、ボンディング型とブリッジング型という2種類のソーシャル・キャピタルが、個人レベルにおける規定要因という側面と、地域レベルにおける農村・都市間の分布パターンという側面から比較し、この両者がお互いに異なる関係ではなく、共通部分を有し、重なる関係であることを実証的に明らかにし、従来のソーシャル・キャピタル研究を発展させた貴重な学術成果が得られていると評価できる。

本審査委員会は、口述試験の内容を踏まえ、論文に関する慎重かつ総合的な審査をおこなった結果、博士学位請求論文としての水準を十分満たしているものと判断し、これを受理することに全員が合意した。

申請者名: Qin Ziyi

博士論文審査委員会

主査 Chief Examiner:

氏名 Name: 松岡 俊二 (Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: 博士(学術) 取得大学 Conferred by: 広島大学

専門分野 Specialty: 環境経済・政策学

副査 Head Deputy Examiner:

氏名 Name: 黒田 一雄 (Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 教授

学位 Degree: 博士(教育・開発社会学) 取得大学 Conferred by: コーネル大学

専門分野 Specialty: 比較国際教育学

副査 Deputy Examiner:

氏名 Name: 鍋嶋 郁 (Signature)

所属 Affiliation: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

職位 Title: 准教授

学位 Degree: 博士(経済学) 取得大学 Conferred by: カリフォルニア大学デービス校

専門分野 Specialty: 国際経済学

副査 Deputy Examiner:

氏名 Name: 田中 勝也 (Signature)

所属 Affiliation: 滋賀大学環境総合研究センター

職位 Title: 教授

学位 Degree: 博士(農業・資源経済学) 取得大学 Conferred by: オレゴン州立大学

専門分野 Specialty: 環境・資源経済学

2020年1月 20 日